

在する場合の噴流の挙動を検討した例はあまり見受けられませんでした。

本報告では、潮流中及び波浪中で気泡噴流を油拡散防止装置として利用することを目的とし、その基本特性を検討しています。まず、二次元鉛直上昇噴流について静水中の基本特性を明らかにし、さらに潮流が存在する場合に解析を拡張して数値計算を行い噴流の軌跡について実験値との比較考察を行っています。また、潮流中及び波浪中におかれた噴流の挙動についても調査し、噴流のもつ消波能力及び流体力学的な拡散阻止限界流速を求めました。そして、実際の油を使用して、噴流の作用によりいくらの潮流速まで油を遮断できるかという確認を潮流及び波浪共存中の実験によって行いました。

資料の紹介

水中の平板に取付けた圧力変換器に およぼす振動影響の研究

黒部雄三・吉田三雄

模型プロペラにより誘起される変動圧力を、平板に圧力変換器を取付けて計測することが一般に行われています。しかし、平板の振動が圧力の計測値にどのような影響を与えるのか明確ではありません。

この資料は平板が一様振動している場合について加振実験を行い、振動の圧力値への影響を推定することが可能であることを示しています。